



〔海の状況 (4/16~5/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて神子平年並み(平年差±0.5℃)から神子平年よりはなはだ高め(平年差1.5℃~)で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて平年よりやや低め(平年差-1.0℃~-0.5℃)から平年よりやや高め(平年差0.5℃~1.0℃)の間で推移した。(図2)

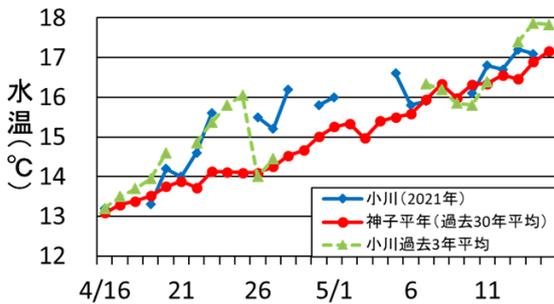


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2018年~2020年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

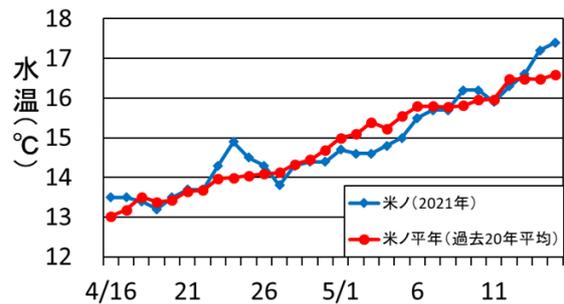


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：4月〕

4月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0m)では、若狭湾沿岸西部で12℃~14℃と前年より水温が低くなっていた。水深50mでは、若狭湾沿岸で12℃~14℃と前年同様であった。水深100mでは、山陰・若狭沖冷水域の規模が前年より大きくなっていた。水深200mでは、若狭湾沖で前年より4℃以下の範囲が小さくなっていた。(図3)

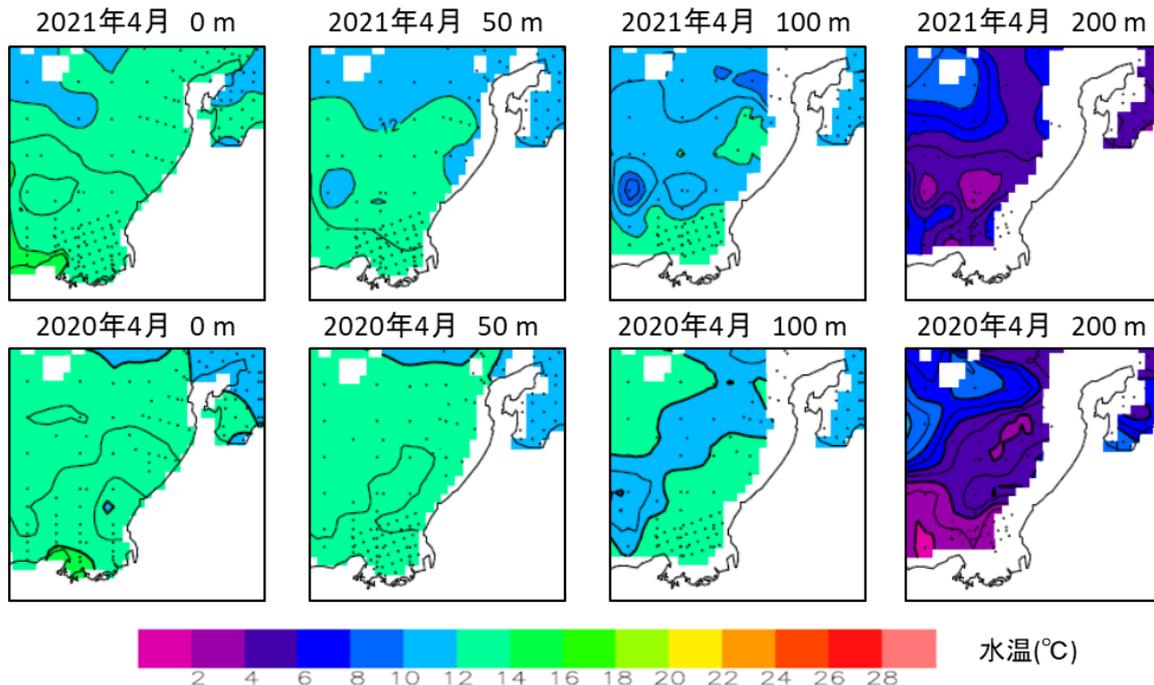


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

海の状態 若狭町小川地先の水温情報について

若狭町の水温測定場所を2018年4月に神子地先から小川地先に変更して以降、3年が経過し、小川地先の水温を過去3年平均としてまとめることができるようになったことから、本号より過去3年平均を掲載することにしました。しかし、欠測のため日によって3年分のデータが揃わないこともあるため、しばらくの間は従来通り神子平年と小川地先水温で比較を行い、グラフに過去3年平均水温を併記します。

(漁場環境グループ 長島拓也)

〔県内の漁模様：4月〕

2021年4月の県内の総漁獲量は1,004 tで、前年同月を84 t上回った。

〔定置網〕

漁獲量は563 tで、前年同月を100 t上回った。サワラ、ブリ（ブリ、ツバス）等は下回ったが、フグ類は大きく上回った。

〔底びき網〕

漁獲量は353 tで、前年同月を33 t下回った。アカエビ、キダイ等は上回ったが、アカガレイ、ホタルイカ等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は88 tで、前年同月を17 t上回った。スルメイカ、マダイ、ヒラメ等は下回ったが、フグ類、ナマコ類、ヤリイカ等は上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(4月)

定置網	(kg)				
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
マイワシ	3,733	457	10,961	3,276	-7,228
カタクチイワシ	1,622	9,326	4,251	-7,704	-2,629
アジ類	11,408	15,995	39,728	-4,587	-28,320
サバ類	2,781	312	5,729	2,469	-2,948
マグロ類	2,739	1,422	891	1,317	1,848
ブリ銘柄計	120,097	223,233	121,102	-103,135	-1,005
(ブリ)	76,434	146,236	41,201	-69,802	35,233
(ワラサ)	22,259	21,836	18,985	423	3,274
(ハマチ)	6,046	1,712	6,307	4,334	-261
(ツバス)	15,359	53,449	54,608	-38,089	-39,248
ヒラマサ	3,249	3,521	1,404	-272	1,846
サワラ	58,253	165,905	66,031	-107,653	-7,778
マダイ	34,826	10,663	14,741	24,163	20,085
クロダイ	1,647	2,123	1,453	-476	194
スズキ	8,198	5,095	12,158	3,104	-3,960
ヒラメ	1,550	1,324	1,425	226	125
フグ類	292,405	4,679	35,449	287,726	256,956
スルメイカ	2,388	1,274	11,940	1,114	-9,552
ケンサキイカ	3,016	1,592	827	1,424	2,189
コウイカ	2,584	3,969	1,699	-1,384	885
その他	12,151	11,346	25,075	806	-12,924
合 計	562,647	462,234	354,864	100,413	207,784

底びき網	(kg)				
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
マダイ	1,632	2,008	2,426	-376	-794
キダイ	4,963	2,318	3,184	2,645	1,779
スズキ	1,401	1,616	2,254	-215	-853
ヒラメ	2,851	2,197	3,879	655	-1,027
アカガレイ	40,507	77,405	78,359	-36,899	-37,852
その他カレイ	28,130	30,824	39,040	-2,694	-10,910
フグ類	6,060	11,858	6,025	-5,798	35
アナゴ	1,835	898	2,561	936	-726

底びき網の続き	(kg)				
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
ハタハタ	13,271	18,734	19,846	-5,463	-6,574
タラ	2,058	2,620	1,871	-562	187
メバル類	1,406	1,521	1,326	-114	80
ニギス	2,423	1,919	997	504	1,426
ホタルイカ	173,140	181,411	248,895	-8,271	-75,755
タコ類	4,582	4,078	4,025	504	556
アカエビ	48,094	26,921	35,277	21,173	12,817
その他エビ	5,381	3,575	4,989	1,806	392
その他	15,274	16,475	25,589	-1,202	-10,315
合 計	353,009	386,380	480,543	-33,371	-127,534

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
マダイ	1,958	4,088	4,074	-2,129	-2,115
キダイ	3,542	2,805	2,350	737	1,192
アマダイ	4,322	4,264	4,145	58	177
ヒラメ	3,481	4,208	4,177	-728	-697
その他カレイ	4,715	1,781	10,577	2,935	-5,862
フグ類	5,977	412	503	5,564	5,474
アナゴ	1,480	1,586	2,047	-106	-567
メバル類	5,759	3,813	8,971	1,947	-3,212
カワハギ類	3,561	2,641	3,441	920	120
スルメイカ	3,726	9,253	16,009	-5,527	-12,282
ヤリイカ	3,672	234	2,398	3,438	1,274
コウイカ	3,866	1,836	2,318	2,030	1,548
タコ類	10,591	7,312	9,192	3,279	1,399
ナマコ類	13,085	9,640	12,685	3,445	400
その他	18,331	17,664	48,292	666	-29,961
合 計	88,067	71,538	131,180	16,529	-43,113

全漁法	(kg)				
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
合 計	1,003,723	920,152	966,587	83,571	37,137

※1 平年の値は2011-2020年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。ズワイガニ漁獲量は集計方法の違いにより福井県底曳網漁業協会と異なる場合があります。

※4 ニギスの平年値は2015-2020年の6年平均です ※5 カワハギ類(カワハギ、ウマヅラハギ、ウスバハギ)、ナマコ類、タラの平年値は2014-2020年の7年平均です。

※6 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：4月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：4月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：4月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：4月中旬～5月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マイワシ134.0 t、カタクチイワシ6.5 t、サワラ類3.6 t、ブリ1.7 t、スルメイカ1.7 t
 京都府…定置網…サワラ類8.6 t、ブリ3.7 t、カタクチイワシ3.6 t、カワハギ類2.1 t、ヒラマサ1.0 t
 兵庫県…定置網…マアジ486 kg、ブリ150 kg、ツバス118 kg、スズキ32 kg、マイワシ17 kg、サワラ15 kg
 鳥取県…まき網…マイワシ48.0 t、ブリ類5.7 t、ウルメイワシ3.8 t、カタクチイワシ0.5 t、マアジ0.4 t

(漁場環境グループ 長島 拓也)

遡上アユ集めています！

6月以降に県内各主要河川でアユ釣りが解禁されます。内水面総合センター（以下センター）ではアユ資源の充実を目的として、稚魚の生産（種苗生産と言います）を行い漁業協同組合（以下漁協）に販売しています。漁協は購入した種苗を河川に放流するのですが、この放流種苗が釣れにくいのではないかという評価がなされていました。その理由として、アユはなわばりを形成する性質がありその性質を利用した「友釣」が人気のある漁法ですが、センターで飼いならされて代を重ねた種苗は群れを形成し、なわばりを形成しないため釣れにくいと考えられました。

そこでセンターでは平成22年～平成24年に種苗生産方法を改良し、釣れやすい種苗の生産を試みました。従来法と改良法の比較については拙著（水産技術第6巻第1号）に方法と結果の詳細を記載しましたが、100尾の種苗で行った成群性試験においても改良法で生産した種苗では群れを形成せず、実際河川に放流した釣獲試験でも釣れやすいことが分かりました。代を重ねない方が釣れる種苗になるようです。

これらの知見を基にセンターでは、秋季の落ちアユから採卵し足掛3年かけた種苗生産から、春季に河川を遡上するアユから採卵した足掛2年の種苗生産方法に変更し、遡上アユの性質を良く反映した野性味ある種苗の出荷に努めています。

改良法で作成した種苗放流の結果から、アユの釣果を期待した遊漁者による河川の賑わい創出を期待したいところですが、遡上アユの効率的な捕獲には課題が残っております。现阶段では堰手前で遡上できないアユを投網で漁獲しており（図1、2）、センターでは足羽川漁協の協力を得ながら、例年4～5月に放流種苗の親となる遡上アユの確保を図っています。（内水面総合センター 森山 充）

研究内容の詳細は https://www.fra.affrc.go.jp/bulletin/fish_tech/6-1/05.pdf



図1 遡上アユ捕獲方法



図2 確保した遡上アユ